

福祉映画上映会

車椅子バスケットボールにかける、
高校生の青春物語

僕はひとりじゃない。
支えあえる君が
こんなにそばにいる

10月23日(日)

13:30~15:30 (受付 13:00)

士別市民文化センター大ホール (士別市東6条4丁目)

中田新一 監督作品

ウィニング・パス

Winning Pass

厚生労働省推薦
文化科学省選定
日本PTA全国協議会推薦



入場料 500円 (チケット販売。当日券もございます。)

チケットは士別市社会福祉協議会で取扱いしております。

主催 士別市共同募金委員会
共催 士別市・士別市社会福祉協議会・士別市ボランティアセンター
製作 「ウィニングパス」製作委員会

問合わせ 士別市共同募金委員会事務局 (生方・吉倉)
士別市東5条3丁目1-1 士別市社会福祉協議会内
電話 22-3012 FAX 22-3019



この映画会は、赤い羽根共同募金運動の啓発を目的に実施します。

失うことで、僕は手に入れた

生きることの本当の意味を——

舞台は北九州——

車椅子バスケットボールの迫力を完全映像化!!

目を見張るスピードと鋭いターンの切り返し。鋭技用車椅子を緩急自在に操り、所せましと繰り広げられる白熱のプレーは、見るものを圧倒し一気に引き込んでしまう。本作は、アジア初「ゴールドカップ2002」(パラリンピックと並ぶ世界最高峰の車椅子バスケット選手権大会)開催地の北九州市を舞台に、車椅子バスケットボールにかける高校生の青春群像を描く。

ある日突然、ひとつの「自由」を失った高校生の挑戦...

高校2年の健太は彼女の香織、親友の大輔・和也と共にそれなりに楽しい高校生活を送っていた。香織はスタイリストを目指し上京を考えている女の子。そのまっすぐな眼差しに、健太も自分の可能性について考え始めた矢先だった。突然の事故で下半身不随になった健太。「車椅子になる」現実を受け入れられず周囲を拒絶する健太だったが、同室のヘンなオヤジ・坂田や、車椅子バスケットを始めるきっかけとなる誠との出会いで次第に明るさを取り戻していく。

学校に戻った健太は、自分を受け入れてくれる香織に対して素直に接することが出来ないまま、誠が所属する車椅子バスケットチーム「北九イーグルス」に入る。激しいぶつかり合いとスピード...まさに格闘技さながらの車椅子バスケットの世界に、健太は自分の居場所を見出していく。

新しい人生をつかんでいくための、健太の挑戦が始まる。

市民参加の映画プロジェクト。

撮影はほぼ全編が北九州市内で行われ、「市民応援団」の結成や北九州フィルム・コミッションを軸とする行政の協力の下で製作された。撮影中には延べ1,000名にも及ぶ市民エキストラや、現場を手伝うボランティア・スタッフが加わり、行政、市民と共に作り上げられた作品である。また、映画の後半で大きな盛り上がりを見せる車椅子バスケットの試合シーンの撮影には、九州地区の実際の選手達に参加し、迫力のプレーを披露している。

監督は、山本薩夫、深作欣二、市川崑、熊井啓といった日本を代表する監督たちのもとで修業を重ねた後、「ドン松五郎の生活」「チンパオ」等、多彩な作品を手がけてきた中田新一。プロデューサーは、福祉や環境の分野で映画作りを手がけてきた中橋真紀人。また、音楽監督には数々のテレビドラマ、映画音楽を手がけてきた千住明。

主人公・健太には、本作が映画初主演となる期待の若手俳優・松山ケンイチ。3ヶ月に渡る車椅子バスケットのトレーニングを経て、撮影に挑んだ。その父親にテレビドラマやCMでもお馴染みの矢崎滋、母親には東京乾電池の角替和枝、妹に「V6」主演映画「COSMIC RESCUE」でヒロインに選ばれた新人・堀北真希。健太の恋人には、「日テレジェニック2002」で大きな注目を集めた佐藤めぐみ。そして、加藤剛をはじめ、三浦誠己、加藤大治郎(加藤剛子息)、ベンガル、寺島進、石井めぐみ、柄本明といった演技派・個性派の俳優たちが脇を固める。

2003年/カラー/108分/ヴィスタ・サイズ/ドルビー/©2003「ウィニング・パス」制作委員会



ウィニング・パス

Winning Pass



もも
北海道